

豊かな社会性を育む学級活動

1. はじめに

最近の若者は、「自分のことしか考えない」とか「社会に要求ばかりして社会に奉仕しようとしなさい」とよく言われる。しかし、人間は幼いときから、「よりよく生きたい」とか「人の役に立ちたい」という思いを持っている。その気持ちの対象は、親や身近な人から成長につれて広く社会へと向かうはずであるが、どうしてこのようなことになるのだろうか。

その原因の1つとして、社会の一員としての豊かな感性の欠如が考えられる。感性は、自然のままにされていたり子どもにただ任せていて育つものではない。内発性や自主性が何よりも尊重される特別活動においては、ただ強制的に実践させるのではなく、子どもの日常の生活を観察し、「卒啄」と行う言葉があるが、まさに今だと思われるときに活動を仕組む（計画委員会に提案）ことが必要であると思われる。たとえ教師からの提案であろうと子ども達の意識（無意識も含む）が熟しておれば、子ども達のめあてとなり実践を通して、子ども達の願いは満足され社会性における感性もより豊かに育まれると考える。

2. 指導事例 第4学年 「私たちにできること」

(1) 題材について

本校の児童は、かなり広い範囲から交通機関や歩道橋などの公共施設を利用して登校してくる。これらを使用する児童の気持ちは、彼らの態度から察するに、その施設などを維持管理するための苦労や、使用するには心得があるのだということに目が向いていないように思われる。あるいは、道徳的知識は身につけているが、それらを具体的な生活場面で生かす実践力に欠けているのかもしれない。今回子ども達に、“なすことによって学ぶ”すなわち活動を通して身につける感性を育てていきたいと考える。

本学級の児童は、学年当初から些細なことではあるが、「便所のスリッパをそろえる」とか、「出しっぱなしになっている水道の栓を進んで止める」など、皆が使う場所を他の利用者のことも考えてよくしていこうという公共性が育ってきている。今回子ども達には、奉仕に関わる体験的な活動を経験することにより、進んで身の回りの公共施設にも目を向ける事ができるようになってほしいと考える。

(2)指導経過と展望…………… (全5時間)

- 第1時 身近な校外の施設アンケート…………… 1/2
 第2時 どんな活動をしたらよいか事前調査…………… 1
 第3時 話合いをする…………… (本時)
 第4時 奉仕活動をする…………… 2
 第5時 実践のふりかえり…………… 1/2

(3)授業設計の焦点

今回の議題は、子ども達の実態を踏まえたものとはいえ、教師のほうからの呼びかけ（計画委員会へ提案）によるものである。そこで、子ども達の意欲をどれだけ高められるかということが、鍵となる。そのため、導入部分で、自分も利用者の一員として関わりが深いことや、提案者や他の利用者の心情に共感できるように、実態調査でつかったことを想起する場を設定した。さらに子ども達に、「よいことをする」という観念的なとらえにならないように提案理由も心情に働きかける形で書かせた。また、活動内容が限定するようであれば、自分たちの生活場面や他教科・領域で学習した内容が生かせないか言葉掛けをして、一人ひとりの子どもの個性が生きる活動が生みだせるようにしたい。

(4)授業仮説

自分に関わりが深い内容だと感じ、提案者や他の利用者の心情に共感できる場を設定すれば、子ども達は豊かな気づきを基に創造的な活動内容を考え出すであろう


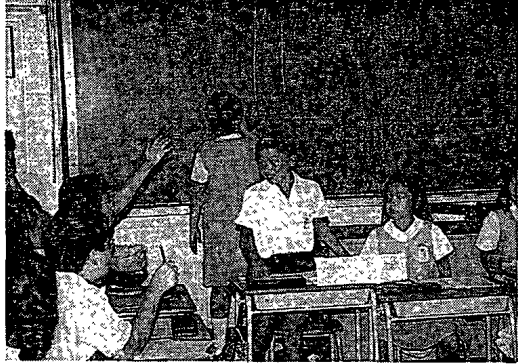
(5)本時の目標

事前調査を基に実践に結びつく話合いをし、計画を立てることができる。

(6)評価の観点

個性の伸長	利用者の立場に立って創造的な活動内容を考えることができる。
社会性の育成	自らが使用する公共施設を進んでよくしようとする態度を育てる。
自主的・実践態度	事前調査を基に実践に結びついた話合いをし計画を立てることができる。

第Ⅲ章 豊かな感性を育む授業実践

学 習 活 動	指 導 ・ 支 援 活 動
<p>1 学級の歌を歌う。</p> <p>2 議題を確認する。</p> <p>3 提案理由を説明する。 (提案者) ・ 質疑応答</p> <p>4 話し合いをする。</p>	<p>1 ◎子ども達が話し合いで心を開き思いや意見が出しやすくなるよう、「集まられた先生方に知って戴けるよう大きな声で歌おう。」と言葉掛けをする。</p> <p>2 ◎子ども達が、自分たちも関わりが深い内容だという構えをもつよう、ゆっくり言わせる。</p> <p>3 ◎子ども達が、ただ単によいことをするという観念的なとらえにならないように提案理由の書き方も心情に働きかける形で書かせる。 ◎提案者や他の利用者の心情に共感し、これからの取り組みに対する意欲を高めさせるとともに、事前調査をしたときの様子を想起する場を設定し、その後で提案理由を聞かせる。</p> <p>4 ◎子ども一人ひとりの生活体験や長所が活かせるように、活動内容をグループ編成よりも関に話し合わせる。 ◎活動内容が実践不可能なものや安全面で物語がある場合は、決まった内容を吟味するよう言葉掛けをする。 ◎活動内容が限定されるときは、生活経験や他教科・領域で学習したことを振り返ってみるよう言葉掛けをする。</p>
	
<p>5 決定事項を確認する。 (発表一書記)</p> <p>6 話し合いを振り返る。</p> <p>7 先生の話聞く。</p> <p>8 終わりの言葉を言う。 (司会者)</p>	<p>5 ◎決まった内容を確認しながらこれからの計画が思い浮かべられるようノート書記にゆっくりと読ませる。</p> <p>6 ◎話し合いを振り返り、自己評価ができるよう1分間瞑想させる。</p> <p>7 ◎話し合いの進めかた、子ども達が考えた活動内容についてできるだけ肯定的に評価し、実践の意欲を高める。</p>

(7) 終わりに

子ども達は、話し合い活動において、その子らしさを発揮し実に豊かな活動内容を考え出した。実践においても、汗を拭き拭き協力し合って頑張っていた。側を通る老人に声をかけられ驚くとともに、自分たちの内面からの行動を改めて社会的な立場から見直したようである。何人もの子どもが、そのことを振り返りの場で述べていた。また、後日清掃活動した施設の一つ（公園）を登下校中に通る子どもが、「球根に水をやった」とか「便所が汚いよ」と言うことを話題にしていた。子ども達の意識は、一時的なものではなく継続的なものへと社会性が深まったと考えられる。

子ども達の実践意欲を高めることができた観点として、2つあるように思う。一つは、子ども達が清掃活動をする場所を事前調査したことである。その結果、具体的なことに気づきそれを基に活動の内容が考えられたのだと思う。もう一つは、話し合いの進行である。いくらよい題材でも話し合いがガラガラと長時間に及ぶ場合には、子ども達の意欲は減退してしまう。話し合いの場は、実践化を可能にする場であるとともに意欲を高める場でもある。話し合いが1単位時間で終わったことも一つの要因として考えられる。

問題点としては、題材設定の仕方が挙げられる。子ども達の実態を考えて仕組んだ（教師から計画委員会へ提案する）活動ではあったが、やはり子ども達が自ら気づき・感じるものの方が、真に内面に根ざしたものとなるのではないかということである。そうであれば、子ども達の社会性を豊かにするには、他教科との関連を生かし、日頃から意識を高めておくことが必要になる。

また、子ども達は、話し合いの場で豊かな発想を基にたくさんの活動を考えついたが、校外での活動が初めてということもあり、「する」「しない」ではなく「可能か」「不可能か」という観点で吟味する必要があった。子ども達の発想の豊かさも大切であるが、実践に結びつかせるための吟味も同様に大切である。

最後に子ども達の意識が一過性のものとして終わる事なく、また身の回りの公共施設へと波及していくようにことある毎に働きかけていかなくてはならないと考える。

（川上 公範）